

土地改良事業変更計画概要書

事業名 : 区画整理事業
地区名 : 下野目東部
所在地 : 大崎市
事業主体 : 宮城県

I. 変更理由

本地区は、宮城県の北部、大崎市の北西部に位置し、一級河川江合川の上流右岸に展開する南北に細長く拓けた水田地帯である。平成27年度に農業競争力強化基盤整備事業下野目東部地区として事業着手したが、下記項目において変更が生じたことに伴い、今回土地改良法の変更を行うものである。

- 1) 地区面積A=3.3haの減
 - ・ 地区編入A=0.7haの増
 - ・ 地区除外A=1.9haの減
 - ・ 精査に伴うA=2.1haの減
- 2) 受益面積A=4.2haの減
 - ・ 地区編入A=0.1haの増
区画配置の効率性を図ることによる編入。
 - ・ 地区除外A=1.3haの減
区画配置が有効とされない土地の除外。
 - ・ 道水路減歩面積の増により受益面積A=3.0haの減
道水路の施設面積が増えた事による減。
- 3) 施設計画の変更
 - ・ 整地工・・・受益面積の減によりA=4.2haの減
 - ・ 道路工・・・区画形状の変更によりL=502mの減
 - ・ 用水路工・・・区画形状の変更によりL=305mの増
 - ・ 排水路工・・・区画形状の変更によりL=691mの増
 - ・ 暗渠排水工・・・区画整理後に排水状況が改善がされたことによりA=55.0haの減

II. 変更内容

1. 受益面積の変更

(1) 地積

区分 地目	変 更 前		変 更 後		備 考
	現 況	計 画	現 況	計 画	
田	181.4 ha	172.3 ha	181.2 ha	169.0 ha	
畑	4.3	2.4	2.0	1.5	
小計	185.7	174.7	183.2	170.5	
道水路、その他	24.6	35.6	23.8	36.5	
合 計	210.3	210.3	207.0	207.0	

2. 主要工事計画の変更

(1) 事業目的別面積の変更

種 別	変 更 前	変 更 後	備 考
1. 区画整理	210.3 ha	207.0 ha	
①整地工	174.7 ha	170.5 ha	
②道路工	34,604 m	34,102 m	
③用水路工	23,135 m	23,440 m	
④排水路工	29,675 m	30,366 m	
2. 暗渠排水工	68.2 ha	13.2 ha	
3. 客土工	- ha	- ha	

3. 事業量の変更

(単位：千円)

工 種	変 更 前		変 更 後		増 減	
	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費
純工事費		3,142,000		3,144,600		2,600
区画整理	210.3 ha	2,988,000	207.0 ha	3,117,400	▲ 3.3 ha	129,400
整地工	174.7 ha	855,000	170.5 ha	793,900	▲ 4.2 ha	▲ 61,100
道路工	34,604 m	405,000	34,102 m	358,500	▲ 502 m	▲ 46,500
水路工	52,810 m	1,728,000	53,806 m	1,965,000	996 m	237,000
用水	23,135 m	570,000	23,440 m	643,600	305.0 m	73,600
排水	29,675 m	1,158,000	30,366 m	1,321,400	691.0 m	163,400
暗渠排水工	68.2 ha	154,000	13.2 ha	27,200	▲ 55.0 ha	▲ 126,800
測量試験費	－ 式	376,000	－ 式	321,700	－ 式	▲ 54,300
用地補償費	－ 式	140,000	－ 式	89,700	－ 式	▲ 50,300
換 地 費	－ 式	169,000	－ 式	191,000	－ 式	22,000
営 繕 費	－	－	－	－	－	－
その他経費小計		685,000		602,400		▲ 82,600
事業費合計		3,827,000		3,747,000		▲ 80,000
事務的経費	－ 式	191,300	－ 式	186,800	－ 式	▲ 4,500
総事業費		4,018,300		3,933,800		▲ 84,500

4. その他

(1) 工事予定期間

変更前				変更後				備 考
着手	平成	27	年度	着手	平成	27	年度	
完了	令和	7	年度	完了	令和	7	年度	

(2) 事業費の変動率

$$C = \frac{\text{変更後事業費} - (\text{変更前確定総事業費} + \text{自然増額} + \text{請負差額} + \text{その他変更額})}{\text{変更前確定総事業費}} \times 100$$

$$= \frac{3,747,000 - (3,827,000 + 101,600 + \blacktriangle 16,400 + 48,000)}{3,827,000} \times 100$$

$$= \blacktriangle 5.6 \%$$

自然増額： 101,600 千円
 請負差額： ▲ 16,400 千円
 その他変更額： 48,000 千円

※上記変動率は、事務的経費を除いた変動率

目 次

第一章	:	目		的
第二章	:	地 域 の 所 在 及 び 現 況		
第三章	:	基 本 計 画		
第四章	:	工 事 又 は 管 理 の 要 領		
第五章	:	換 地 計 画 の 要 領		
第六章	:	費 用 の 概 算		
第七章	:	効 果		
第八章	:	他 の 事 業 と の 関 係		
第九章	:	計 画 概 要 図		

第一章 目 的

本地区は、宮城県の北部、大崎市の北西部に位置し、一級河川江合川の上流右岸に展開する南北に細長く拓けた水田地帯である。

地区内の水田は、昭和31年～32年に行われた団体営事業により15a区画に整備されている。基幹の用排水施設は、国営かんがい排水事業により整備済みであるが、末端水路の大部分は用排兼用の土水路のため水管理に苦慮している状況である。また、農道は道路幅員が狭小であることと、道路に接していない水田があることから、近代的な営農に支障を来しており、担い手の育成を阻害している状況である。

よって本事業により、区画形状の拡大、用排水路の完全分離化を実現し、汎用耕地による土地利用集積を図り、土地利用型及び集約的農業の生産向上を目指すものである。

第二章 地域の所在及び現況

第1節 地 域

宮城県大崎市岩出山

第2節 地 積

現況地目 市町村名	田	畑	小 計	その他	計	備 考
	ha	ha	ha	ha	ha	
大崎市	181.4 181.2	4.3 2.0	185.7 183.2	24.6 23.8	210.3 207.0	
計	181.4 181.2	4.3 2.0	185.7 183.2	24.6 23.8	210.3 207.0	

第3節 現 況

第1項 地 形

本地区は、宮城県の一部、大崎市の北西部に位置し、一級河川江合川の上流右岸に展開する南北に細長く拓けた水田地帯で、1/100～1/400程度（主傾斜1/375）の傾斜を有している。受益地の標高はTP33.94～TP53.24である。

第2項 地 質、土 壤

本地区の地質は、第四系完新統沖積地堆積物より形成され、土壌は下記のとおりである。

土 壤 状 況									
番 号	E40	K95	F52	J91					計
土壌統区名	グライ土壌 強粘土構造型	礫質土壌 壤土マンガン型	灰色土壌 壤土型	礫層土壌					-
面 積 (ha)	77.4 (1.0)	64.0 (3.2)	8.3 (-)	31.7 (0.1)					181.4 (4.3)
	77.4 (0.3)	63.8 (1.6)	8.3 (-)	31.7 (0.1)					181.2 (2.0)
地形・傾斜	1/100～1/400 (1/375)								-
乾 湿	半湿	乾	乾	乾					-

面積の下段()は普通畑

第3項 一般気象

観 測 所 名	古 川 観 測 所		自 平成 14 年 ～ 至 平成 23 年	
	かんがい期5～8月	非かんがい期9～4月	計又は平均	備 考
平 均 気 温	19.9℃	7.1℃	11.3℃	
降 水 量	529.5 mm	640.3 mm	1,169.8 mm	
根 雪 期 間	無 霜 期 間	最 多 風 向	最 大 風 速	積 算 温 度
—	—	WNW	21.0m/s	—

第4項 特殊気象

単位：雨量：mm 旱天日数：日

観 測 所 名	古 川 観 測 所									
自 昭和 18 年	第 一 位		第 二 位		第 三 位		第 四 位		第 五 位	
至 平成 23 年	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日
最 大 日 雨 量	342	S23.9.16	181	S61.8.5	149	S25.8.3	149	H23.9.21	139	S33.9.26
最 大 2 日 連 続 雨 量 (mm)	355	S23.9.15	342	S23.9.16	241	H23.9.20	224	S61.8.4	200	H14.7.10
最 大 3 日 連 続 雨 量 (mm)	355	S23.9.15	355	S23.9.14	342	S23.9.16	246	H23.9.20	245	H23.9.19
最 大 連 続 雨 量 (mm)	355	S23.9.15	317	S39.8.20	272	H10.8.25	258	S22.9.7	250	H23.9.19
最 大 連 続 旱 天 日 数	50	H2.1.1	48	S53.11.14	47	S52.1.1	46	S56.1.8	45	S61.1.1
積 雪 量	—		最大凍結深		—					

第5項 水利状況

(1) 用水状況

本地区の用水は、一級河川江合川に設置されている国営かんがい排水事業により整備された大堰頭首工から取水し、1号幹線用水路、第2幹線揚水機場、2号幹線用水路を経て、地区内の用水路に分水かんがいされる。また、一部ため池及び渓流水利用によりかんがいがしている。
地区内の水路は、用排兼用土水路が主で水管理に支障を来している状況にある。

(2) 排水状況

本地区の排水は、地区内の排水路を経て、一級河川蛭沢川へ直接排水、清水川排水路、内川排水路、横江川排水路にそれぞれ自然排水される。
地区内の水路は、用排兼用土水路が主のため排水が悪く汎用化耕地として支障を来している。

第6項 地域環境の概要

本地区は、宮城県の北部、大崎市の北西部に位置し、一級河川江合川の上流右岸に展開する南北に細長く拓けた水田地帯で、地区内には屋敷林や山林がある多様な環境がある地域である。地区周辺の用排水路には、スナヤツメ、ギバチ、ギンブナなど20種の魚介類と、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエルなどの両生類5種が生息している。植物はシダ植物、被子植物など58科184種が確認され、豊かな自然を擁した地域である。

第三章 基本計画

第1節 基本計画の要旨

本地区の現況は、15a区画で整備されているが、地区の水路は殆どが用排兼用土水路で、排水路は敷高も浅く利水・維持管理に苦慮している。農道は極めて狭小のため、大型農業機械の導入や営農の省力化等近代化農業に支障を来している状況にある。

このような状態を改善するため、区画の再整理、用排水路の分離、農道などを整備し耕地の汎用化を図る。また、農地の集団化を実施し大型機械の導入、水管理の合理化などにより生産性の高い農業基盤の整備を行うものである。

また、本地区は大崎市が策定した「田園環境マスタープラン」において、環境に配慮した農業・農村づくりを進めることが明確にされており、今回の事業実施に際しては、貴重な動植物の生息環境に配慮した環境との調和に配慮するものとする。

第2節 主要工事計画

1 . 区画整理	A =	210.3 207.0	ha
		[	
①整地工	A =	174.7 170.5	ha
②道路工	L =	34,604 34,102	m
③用水路工	L =	23,135 23,440	m
③排水路工	L =	29,675 30,366	m
		]	
2 . 暗渠排水工	A =	68.2 13.2	ha
3 . 客土	A =	-	ha

第四章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

工事の内容は、主要工事計画で述べたとおりである。

第2節 管理の内容

本事業により造成される施設は適切な管理が必要となり、用排水路については大崎土地改良区が管理し、農道については大崎市が管理する。

第五章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

本事業は、区画整理及び用排水路、農道の整備を実施するものであるから、工事完了後区画に対応した権利関係の再編のため換地計画を必要とする。

第2節 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合、若しくはそれと同等の実測図面が提出され、換地委員会が適当と認めた場合は、その申し出があった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

区分	区分	地帯別・グループ	個人別換地の方法		
		別団地の設定	位置設定	1戸当り目標団地数	区画畦畔の取扱い
	下野目東部	集落別の集団化とともに担い手農家の所有農地が面的集積の核となるように集団化を図り、大区画の効用を充分に発揮できるように配慮する。	個人別の従前地の利用状況を総合勘案し集積するとともに、利用権設定もしくは作業委託をしている者については担い手農家に集約し選定するものとする。	1.5 団地	大区画の機能を損なわないよう固定畦畔とし、分割する場合には畦畔を築せず杭による分割表示を基本とする。

(3) 非農用地の換地方針

換地区	用途	非農用地区域の位置	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者
下野目東部	鉄塔用地	大崎市岩出山下野目字新窪川原・新中泉・白鳥・新八幡田・清水川・新雨沼	1,589.26	特定用途用地	東北電力ネットワーク(株)
	原野(大崎市)	大崎市岩出山下野目字南山	-	-	従前の地籍653.00㎡について換地を定めない。
	-	-	-	-	-
	ため池用地	大崎市岩出山下野目字上後谷沢	5,146.00	共同減歩見合いによる創設換地	大崎土地改良区(土地改良施設用地)
	道路用地	大崎市岩出山下野目字南川原	109.00	特定用途用地	従前所有者(個人)
	計		1,589.26 6,844.26		

(4) 清算の方法

各人の従前の土地を基準として「比例地積清算」方式によるものとする。

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地の編入承認にかかる事項

(単位 : ha)

区分	公用公共用地				一般国有地	合計
	国有地	県有地	市有地	計		
道路	0.0 0.1	- -	11.5 11.2	11.5 11.3	- -	11.5 11.3
水路	- 0.0	- 0.2	11.3 11.8	11.3 12.0	- -	11.3 12.0
計	0.0 0.1	- 0.2	22.8 23.0	22.8 23.3	- -	22.8 23.3

第六章 費用の概算

	(4,018,300)	
	(3,933,800)	() は事務的経費を含む
	3,827,000	
一金	3,747,000	千円也

第七章 効 用

項 目 区 分	年総効果（便益）額 （千円）	年増加農業所得額 （千円）	備 考
作 物 生 産 効 果	45,317 73,665	▲ 5,091 116	R元年度単価 R6年度単価
営農経費節減効果	205,210 217,913	209,790 221,610	
維持管理費節減効果	▲ 763 ▲ 5,544	8,079 10,123	
景観・環境保全効果	- 1,659	- -	
国産農産物安定供給 効 果	4,456 15,039	- -	
計	254,220 302,732	212,778 231,849	

総費用額	4,946 百万円	総費用額	7,105 百万円
(参考) 総便益額	5,363 百万円	(参考) 総便益額	8,111 百万円

第八章 他の事業との関係

項目 区分	事 業 名	地 区 名	事 業 主 体	受 益 面 積	備 考
異種	国営かんがい排水事業 (H5～H21)	大崎	農林水産省	(10,425.0) A= 158.6 ha 155.8	ダム
異種	県営かんがい排水事業 (S60～H17)	大崎西部	農林水産省	(3,312.9) A= 158.6 ha 155.8	頭首工、用水路 工、水管理施設
異種	団体営(県単) (S52)	細峯	大崎市	(15.8) A= 10.0 ha 13.2	ため池

第九章 計画概要図

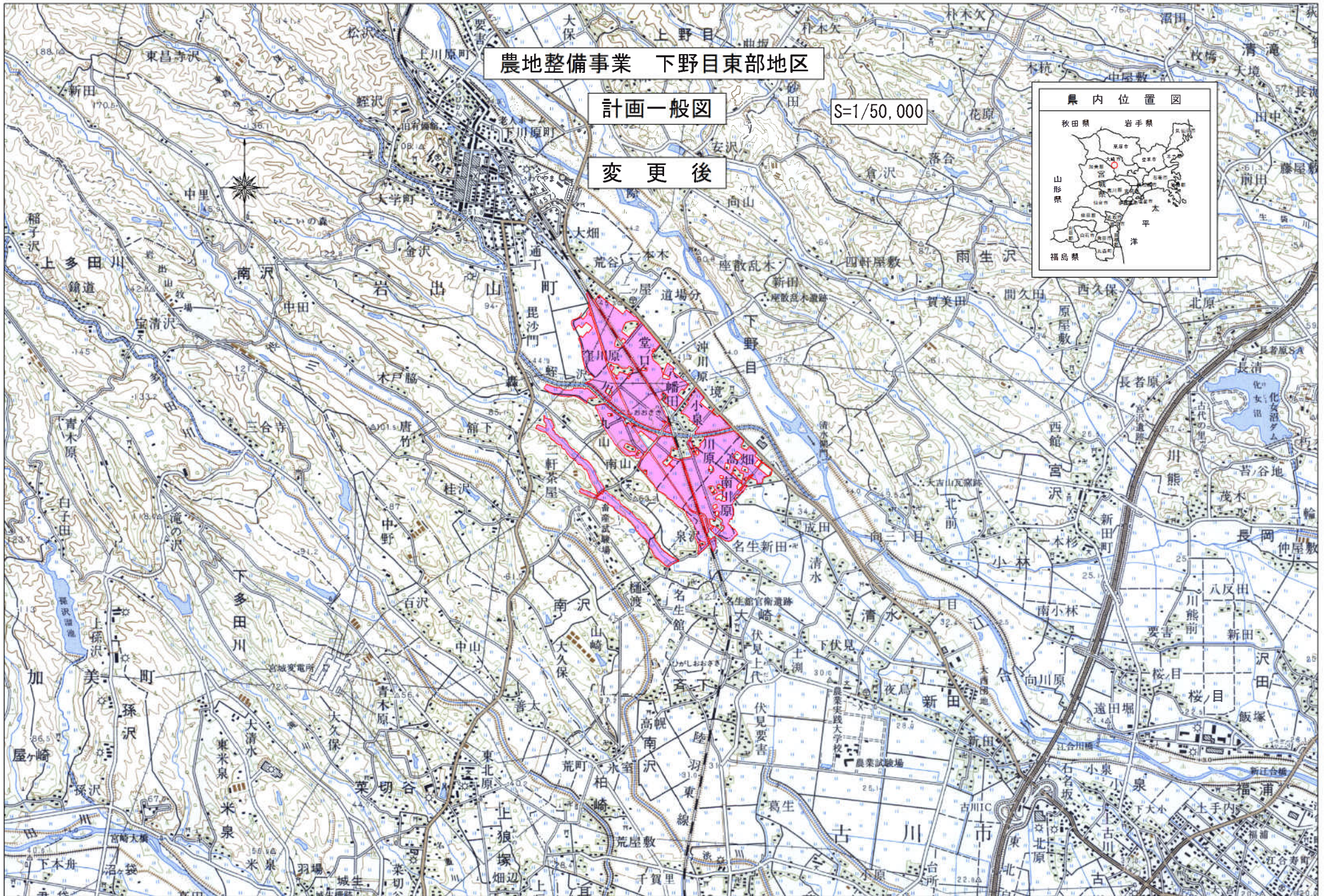
別 紙 参 照

農地整備事業 下野目東部地区

計画一般図

S=1/50,000

変更後

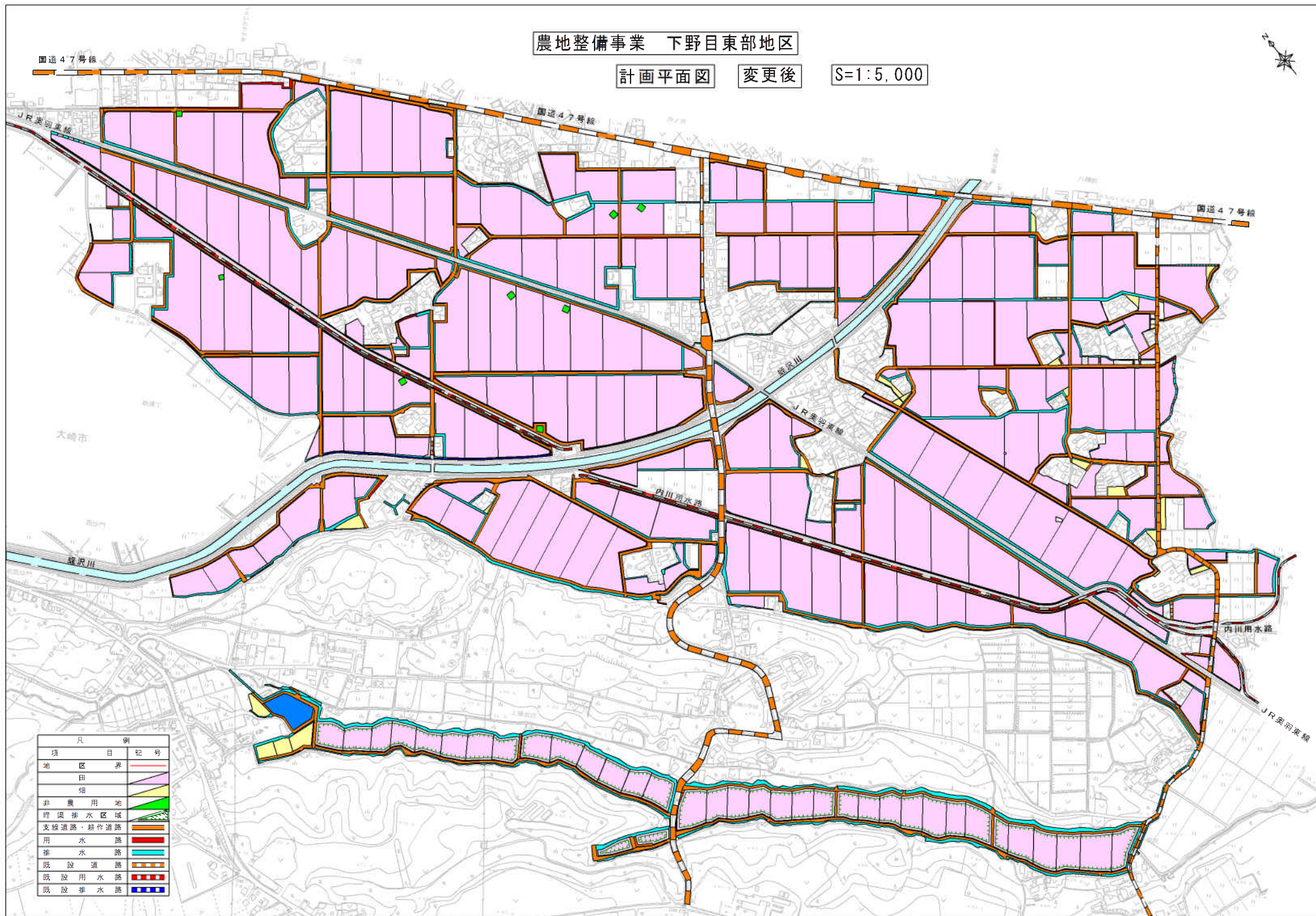


農地整備事業 下野目東部地区

計画平面図

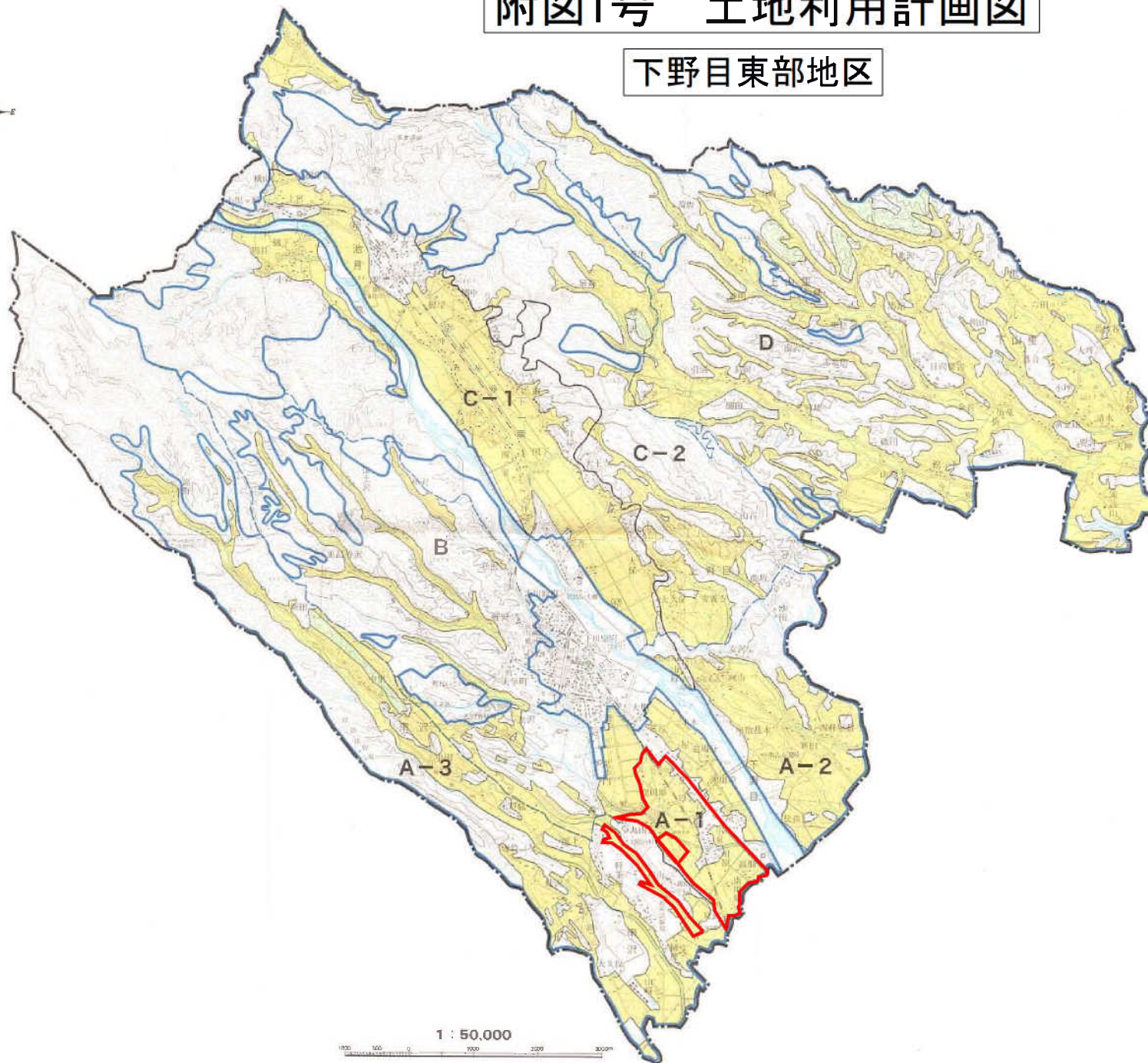
変更後

S=1:5,000



附図1号 土地利用計画図

下野目東部地区



県内位置図



凡 例	
	市 町 村 界
	農業振興地域界
	地 区 界
	農用地区域界
A-1	地区・区域番号
	農用地区域
	混 牧 林 地
	地 区 界